

南アフリカ共和国初の 普通選挙

藤本 義彦

1 アパルトヘイト体制の終焉

南アフリカ共和国（以下南ア）では、非白人の諸権利は剥奪されてきた。1936年の「原住民代表法」、46年の「インド人代表法」、56年の「投票者分離代表法」において、アフリカ人、インド人、カラードは、選挙権を剥奪された。48年の国民党（NP）政権成立後、そうした人種差別政策はアパルトヘイト体制として強化された。しかし、70年代中葉以降、その体制は崩壊し始め、80年代になるとその凋落傾向は顕著になる。84年、NP政権は、憲法を改正しインド人とカラードに対して選挙権を認め、アパルトヘイト体制の維持を図った。しかし、南アの人口の7割以上を占めるアフリカ人の選挙権は依然として認めなかったため、意図に反してアパルトヘイト体制は崩壊過程を加速させていくことになる。

1994年4月26日から29日の4日間にかけて行われた選挙は、アパルトヘイト体制崩壊の最終過程である。人種や民族で区別されることなく18歳以上の南ア国民すべてが選挙権をもち、93年12月に制定された暫定憲法の下で、南ア初の普通選挙

が行なわれた。「人類に対する犯罪」とまで称されたアパルトヘイト体制は、これをもって終焉したのである。

2 イメージ選挙

選挙は比例代表制の下、候補者リストを提出した全27政党によって争われた。主要政党は、アフリカ民族会議（ANC）、NP、インカタ自由党（IFP）、自由戦線（FF）、民主党（DP）、パン・アフリカニスト会議（PAC）である。IFPは選挙直前まで、選挙への不参加を表明していたが、4月19日、マンデラ・デクラーク・ブテレジ三者会談の後、選挙への参加を表明した。FFは、制憲議会内での交渉によって白人民族国家の承認を求めようとする勢力が、アフリカーナー民族戦線（AVF）から分離し創られた。

選挙の争点は、ANCが暫定憲法改正に必要な3分の2以上の多数を占めることができるのか、NPが第二政党としてどの程度の票を獲得できるのか、IFPは閣僚を出すことのできる5%以上の票を獲得できるのか、またFFは民族国家設立の交渉を有利に進めることのできる議席をとれるのか、



投票するマンデラANC議長
(A. Reynolds ed., *Election '94 South Africa*)

ということであった。具体的な政策をめぐる争点はそれほど明確ではなかった。唯一政策論争となったものは、ANCがその経済政策の基本として発表した「復興開発計画」(RDP)に関してであった。ANCは反アパルトヘイト運動の中心組織であったことを強調し、NPは政権党としての実績と政権担当能力を誇示した。また、NP、DPなどは、ANCを社会主義政党だとし、ANCが政権をとった場合、自由市場経済を維持することは難しいとして、ANCのイメージを落とそうとした。各政党のもつイメージを売り込むイメージ選挙が繰り広げられた。

選挙そのものは、当初、平和裡に行なわれるのか心配されたが、IFPが選挙に参加したこともあり、平穏に行なわれた。独立選挙管理委員会(IEC)の推計によれば、全国で約2270万人の有権者のうち、86%の約1973万人が投票したとされる。5月6日には、IEC委員会のクリヘラー判事によって、選挙結果と選挙そのものの評価が発表され、今回の選挙は「相当程度、自由かつ公正に」行なわれ

たと評価された。

3 選挙の結果

選挙結果であるが、国民議会では、ANCが62.6%の票を得て252議席、NPは20.4%で82議席、IFPは10.5%で43議席を獲得した。その他、FF9議席、DP7議席、PAC5議席、アフリカ・キリスト教民主党政党(ACDP)2議席となった。ANCは3分の2以上の議席を獲得できなかったものの、国民議会では圧倒的多数を占めることになった。NPは20%を超える票を得た。IFPは5%を上回る票を得た。FFは目標の20議席を大きく下回った(国民議会、上院、州議会それぞれの選挙結果については別表を参照)。

上院の議席は、州議会選挙での得票率に応じて配分される。ANCは、上院90議席中60議席を占め、3分の2の多数を占めている。NPは17議席を獲得した。IFP、FFは、それぞれ5議席を獲得、DPは3議席を獲得した。州議会選挙に関しては、ANCが全9州のうち7州に勝利し、残り2州ではNPとIFPがそれぞれ勝利した。

州議会選挙の結果を見ると、ANCは、PWV州、北西州、北トランスバール州、東トランスバール州、オレンジ自由州、東ケープ州の6州で圧倒的な票を得ている。北ケープ州では、30議席中かうじて半数の15議席を獲得しているものの、NPも12議席を獲得し均衡したものとなっている。NPは、西ケープ州で第一党となり、42議席中23議席を獲得し過半数を超している。IFPは、クワズールー・ナタール州で、81議席中41議席を獲得し多数政党となっている。

ここで、各州での得票を各州の人種別の人口比と比較した場合、興味深い事実が浮き上がってくる。西ケープ州、北ケープ州は人口比率としてカラードが多数を占めている。西ケープ州を重点地

南ア制憲議会と州議会の議席数

〔制憲議会：議席数490（国民議会400議席＋上院90議席）〕

	ANC	NP	IFP	FF	DP	PAC	ACDP	合計
国 民 議 会	252	82	43	9	7	5	2	400
上 院	60	17	5	5	3	0	0	90
P W V	6	2		1	1			10
北 西	2	2		1				10
北トランスバール	10							10
東トランスバール	8	1		1				10
クワズールー・ナタール	3	1	5		1			10
オレンジ自由	8	1		1				10
東 ケ ー プ	9	1						10
西 ケ ー プ	3	6			1			10
北 ケ ー プ	5	4		1				10

〔州議会〕

	ANC	NP	IFP	FF	DP	PAC	ACDP	MF*	合計
P W V	50	21	3	5	5	1	1		86
北 西	26	3		1					30
北トランスバール	38	1		1					40
東トランスバール	25	3		2					30
クワズールー・ナタール	26	9	41		2	1	1	1	81
オレンジ自由	24	4		2					30
東 ケ ー プ	48	6			1	1			56
西 ケ ー プ	14	23		1	3		1		42
北 ケ ー プ	15	12		2	1				30
合 計	266	82	44	14	12	3	3	1	425

〔注〕 *MF=Minority Front.

区としたNPの選挙戦略と併せてみると、カラードの多くがNPに投票したために、西ケープ州ではNPが第一党となり、北ケープ州ではANCにわずかに3議席不足する第二党になったものと考えられる。他の州ではアフリカ人が多数を占め、ズールー民族の多いクワズールー・ナタール州でIFPが勝利したことを除いては、ANCが勝利している。

米国の研究者グループの推計によれば（A.

Reynolds ed., *Election '94 South Africa*, 1994), ANCは、アフリカ人の81%, カラードの28%, インド人の25%, 白人の2%の票を得ているという。NPは、アフリカ人の4%, カラードの66%, インド人の50%, 白人の66%の票を得ていると推計されている。政策上の主張では、ANC・NP両党は、人種の垣根を越えた全人種を統合した国民党であるとの主張を行なっているが、選挙の得票面からみた場合、依然として、ANCはアフリカ人の政

党、NPは白人の政党という性格が色濃く残っているといえよう。NPの票田となっているカラード、インド人の投票行動の背景としては、ANC政権下でのアフーマティブ・アクションの結果、アフリカ人の社会進出が予想され、アフリカ人に職を奪われるかもしれないとカラード、インド人が危惧し、ANCへの不信感をもったことが挙げられよう。また、NPの「ANCは社会主義政党である」との宣伝が、カラード、インド人に強く訴えかけたものとも考えられる。親NPの傾向は、カラード、インド人社会の中でも上層の階層にいる人々に強くみられる。

IFPは、クワズルー・ナタール州で票のほとんどを得ている。同州は全国9州のうち第二位にあたる有権者数を抱える大票田であった。そのため、同州以外ではズールー民族の出稼ぎ先のPWV州などで若干の票を獲得しているにすぎないIFPが、全国で10%強の票を獲得できたのである。

選挙結果を概観すると、全27政党のうち8政党が議席を獲得した。うち、ANC、NP、IFPがその大半を占めている（約93%）。5月10日のマンデラ氏の大統領就任式の後に発表された閣僚名簿では、ANC(18ポスト)、NP(6ポスト)、IFP(3ポスト)の3政党で閣僚が占められた。民主的な暫定憲法の枠組みの中で、1999年までの政権を担う「国民統合政府」が主要3党によって樹立された。

4 今後の課題

とはいえ、残された問題は多い。南ア経済の立て直しは緊急かつ重要な問題である。また、南ア社会に残るアパルトヘイトの遺物の克服も重要である。民族主義的な動きも南ア社会の不安定要因として残っている。

各政党の組織的な課題も大きい。ANCの支持基盤は選挙結果に見られるようにアフリカ人を中心とし、組織票としては南ア労働組合会議(COSATU)・南ア共産党(SACP)との連合に支えられている。また、ムベキ副大統領とラマボサ書記長の間にポスト・マンデラをめぐる確執も見えかくれしている。今後の政治運営によっては、分裂の可能性もある。

NPはその体質から白人、しかもアフリカーナ一男性を中心にしており、組織的な改革を更に図っていく必要がある。IFPもズールー民族だけに頼っている現在の支持基盤は脆弱である。

1999年に予定されている選挙を睨み、各党はその支持基盤を広げるために、組織改革に取り組みつつある。

(ふじもと・よしひこ/ヴィットヴァーテルスラント
大学客員研究員)